

つぶやきってなあに

子どもたちは、日ごろから友だちや大人と関わって遊び、生活する中で“うれしいこと”“悲しいこと”“驚いたこと”“腹が立つこと”“求めたり望んだりしていること”など、様々なことを感じ、精一杯表現しています。

このような子どもたちの中の「思い」を表現したもの(言葉・しぐさ・動き・表情など)を、「つぶやき」としてとらえています。

「つぶやき」とおして

幼稚園・保育所(園)・児童発達支援センターなどの就学前施設では、「つぶやき」とおして、子どもの生活や友だちへの「思い」をしっかりと受け止め共感するとともに、周りの友だちに伝え広げていくことを大切にしてきました。

このことは仲間とともに生きる子どもを育み、さらには、一人ひとりの子どもの人権をまもることにつながっていくと考えています。

子どもの姿や思いを私たち大人がしっかりととらえ、保育を見直しなが、子どもたちの人権についてこれからも考えていきたいと思ひます。

ここに紹介している「つぶやき」は「平成26年度子どものつぶやき展」で展示している「つぶやき」の一部です。

絵本「ひろしまのピカ」を読んで

5歳児

ゆか 「ばくだん おちたらいやや」
けい 「こわい」
みゆ 「ひこうきの中で考えたらわかるの について思う」
だい 「あかんやろ！」
あい 「しかも おとなやのに！」
「そんなことしたらあかんやろ！子どもにだってわかるで！」
という戦争への、そして大人への怒りのメッセージに聞こえました。

ごはんって いいにおい！

5歳児

しおんちゃんが リーダーでお米を洗い準備をする。
保育士 「もうごはん炊けてるかな？
リーダーさんみてくれる？」

リーダさんたちが炊飯器のふたをあける ふわ～と湯気があがる
しおん 「わあ～おいしそう めっちゃいいにおいや～」
「ごはんって こんないいにおい するんやな～!!」
「いつも チン！しても いいにおいせーへんのに」
保育士 「ほんまやね!! お米もこんなごはんになって喜んでるとちがう？」

しおんちゃん、あかねちゃんが 炊飯器をのぞき込み
しおん あかね 「ほんまにうれしそう
だって ぴかぴかしてるもん!!」

きりんぐみになってから、給食がご飯の日には、ほとんど部屋でご飯を炊いています。
自分たちでお米を洗い炊飯器に準備して、炊きたてのご飯を食べてます。最近便利になった反面“炊きたてのご飯のにおい”を知らない子どもも増えています。
お米一粒ひとつぶの大切さを知ったり、炊きあがったご飯の色、つや、かおりなど、友だちと共に全身で感じあっています。
まさしく食べることは、生きることですね。

豊中
第21回

子どものつぶやき

平成26年度(2014年度)

21世紀を になう子どもたちに

次代をになう子どもたちが、生き生きと、健やかに育ち、力を合わせて明るい未来をつくりあげてくれることを誰もが望んでいます。しかし、世界はもちろん、日本においても厳しい状況におかれ、様々な差別に苦しみながら生活をしている子どもたちがいます。「子どもの権利条約」にみられるように、子どもが一人の人間として尊ばれ、よりよい環境の中で成長・発達できるようにしていくことが重要な課題となっています。

豊中市では、子ども一人ひとりが健やかに育ち、そして、子どもや子育て家庭に関わる全ての人がつながり、社会全体で子どもを愛情深く育む地域社会を実現するため、「豊中市子ども愛情深く育む地域社会を実現するため、「豊中市子ども健やか育み条例」が、平成25年(2013年)4月に制定されました。

就学前施設では、「豊中市人権保育基本方針」にもとづき、一人ひとりの子どもの人権を大切にすることを基本に、すべての子どもに豊かな感性を育てお互いを大切にすることを培い、人権尊重の基礎的な資質を養うことをめざした人権保育をすすめています。

「子どものつぶやき」は、人権保育の中で大切にしてきた取り組みの一つです。

豊中市子ども未来部保育幼稚園室

せんせー みきちゃん ちょうだいって

1歳児

グループにわかれて おやつを食べている時

みき ジェスチャーしながら「ちょーだい」
保育士が気づかずに 他の子に配っていると

なおし 「せんせー みきちゃん ちょうだいって」

保育士 「あっ ごめん すぐもっていくからね」
友だちの困っていることに気づき、保育士に知らせてくれた かおりちゃん
保育士は気づかなかった事に「ドキッ」としました。

つかってたん？

2歳児

園庭で遊んでいる時に、ひろきちゃんとさちこちゃんが、砂遊び用の
おもちゃを取り合っていました。

けいと 「どうしたん？」 心配そうに2人を見る。

ひろき 「さちこちゃん、とってん！」

けいと ひろきに對して 「つかってたん？」

ひろき 「つかつてな！」

けいと さちこに對して 「つかってたん？」

さちこ 「……」

けいと 「ひろきちゃんいややーって。かしてーやで」

うれしいなあ

運動会の予行練習の後、

保育士 「今日、ひろみちゃん

『すごい頑張ってたなあ』って、

うれ 練習を見に来てた先生が、言ってたで!!

ひろみ 嬉しそうな表情

たかこ 「よかったなあ、ひろみちゃん。

友だちの表情や様子を見て、うれしい という気持ちに共感したことを言葉
にし、ひろみちゃんと気持ちがつながったことにうれしくなりました。

子どもの「つぶやき」は
明日への期待がいっぱい

言ってることわかるで

4歳児

言葉は増えてきたが、発音が不明瞭で伝わりにくい れおちゃん。
毎月の3歳児・4歳児・5歳児の交流する日、れおちゃんが
名前を言おうとすると……

りくと 「どうせ れおちゃん しゃべられへんでー」
はな 「しゃべれるで。いつもしゃべってるしなー！」 れお
ちゃんが はなちゃんにハグをする。
たいが 「たいがも れおちゃんの言ってることわかるで」

りくと 「どうせ れおちゃん しゃべられへんでー」

はな 「しゃべれるで。いつもしゃべってるしなー！」 れお
ちゃんが はなちゃんにハグをする。

たいが 「たいがも れおちゃんの言ってることわかるで」

いつも れおちゃんのことが好きと言ってる はなちゃんと た
いがちゃんが れおちゃんの味方であり、同じクラスの仲間
として、自然に出た言葉です。

だいじょうぶか？

3歳児

リレーの途中で転んでしまい 大泣きしているたかちゃんに
すぐ駆け寄り すぐ駆け寄っていく ひろしちゃん

ひろし 「たか だいじょうぶか？

ひろしがいっしょにはしたるか？」

相手チームの ひろしちゃんが、すぐに駆け寄る姿を見た他の子
もたちも、急いで駆け寄り「大丈夫？」と心配そうに声をかけてい
ました。

たかちゃんは、友だちの優しい気持ちが力になり、最後まで走ること
ができました。

いっしょがいいね！

1・2歳児

こいとちゃん、みあちゃん、みきちゃんの3人がマットの上で遊んでいた
時のことです。

こいと うつぶせになっ冢 顔をあげる。
みあ こいとちゃんを見て わたしも… という感じで
両手をまろ。
みき 2人の様子をみて拍手！

そばにいる友だちはどうしているかな？ と気になったり、まねっこして
みようかな？ と思ったりするこの頃です。

リレー

5歳児

リレーのアンカーで相手チームに抜かされ、最下位になってしまった け
いちゃん。くやしくて泣いていると、同じチームで けいちゃんの前を走る
れいちゃんがやって来て

れい 「けいちゃんが一生懸命走ったの かつこよかったで 私も 明日
もっと走るわ」

少しして泣きやんだ けいちゃん。

けい 「れいちゃん。バトン 渡してくれて ありがとう。

ふたり 明日もがんばろうな」

と、2人はにっこり。

お互いの頑張りを認め合う姿が見られました。

だっこ

3歳児

「みなさん、きょうのしゅくだいは“だっこ”です。おうちの人に抱っこしてもら
ってください。」という内容の絵本を読んでいたときの事です。

さとし 「さとしのおかあさんなあ こしいたいねん。

だっこできへんねん。くるまで きてん」

お母さんに抱っこしてもらおうことが大好きなさとしちゃんですが、今日は
お母さんの腰が痛いのが気づかって、我慢したようです。

大きくなったら

5歳児

プールの防水工事で塗りなおしたところが、2階からよく見える。

ひろみ 「せんせいすごいで プールがピカピカやー」

保育士 「ほんまやねー きれいになってるね」

ひろみ 「ひろみなー 大きくなったら あのお仕事の人になるわー」

保育士 「へえ ひろみちゃん プールきれいにしてお仕事するんや」

ひろみ 「うん！だって みんな よろこぶやん！」

セミさん ありがとう

4歳児

なおとちゃんが死んでしまったセミを大切に持っていた。

保育士 「死んじゃったんやね。うめてあげようか」

なおと 「うん」

うめる前に両手にのせてじーっと見つめていたので

保育士 「どうしたん？」

なおと 「ほめてあげたの」

保育士 「セミさんほめてあげたの？なんてほめてあげ

たの？」

なおと 「あのね、セミさん かわいくてありがとうって」

男はプリキュアだめ？

4歳児

みちこ 「プレゼントにプリキュアもらってん」

はるき 「ほくもプリキュアほしいなあ…」

ふみお 「おとこはプリキュアだめやで」

みんな 「えー」

保育士 「えっ？！なんでだめなん？」

ふみお 「だって…男やから…」

みか 「ええねんで！みかは仮面ライダーが好きや

ねん。どっちでもええやんかあ。

なあ！はるきちゃん」

男・女って何なのかな…？自分で選んだ好きなものが一番いいね。

きんぎょちゃん いたい？

1歳児

病気になって死んでしまい、動かない金魚を取り出す様子を見ていた

みきちゃん

みき 「きんぎょちゃん、いたい？」

「ネンネ？」

「おちやくり？」(おくすり？)

自分たちは病気やケガをすると、病院に行ったり、冷やしてもらったり、

薬を飲んだりして、それで治ることがなんとなくわかってきています。

金魚も同じように薬を飲めば元気になると思っている子どもたちです。

えさ あげたいねん

4歳児

クラスで育てているカメのまわりに、エサをあげに来た4人の子どもたち。

エサをあげすぎると、カメが困ってしまうので、5粒と決めただけれど、

子どもたちそれぞれの手には、2粒、5粒、10粒とたくさん握られています。

けいた 「エサあげたいねん」

ももこ 「わたしも」

あきら 「でも5粒しかあげたらあかんで」

りかこ 「…」

自分があげたい気持ちはあるが、自分だけ先にあげるのではなく、

友だちの顔と手にのせたエサの粒とにらめっこしている子どもたちです。

この後もう1人来て1粒ずつあげることに決めていました。

おこっているのわかった
気がするねん

5歳児

すごく怒り、涙が出ているが何もしゃべらない、けんちゃん

保育士 「どうしたの？」

けん 「……」

あきこ 「あきこ知ってる！あきことみこちゃんとけんちゃんの3人で体操をしていたら、

ひろしちゃんが来て「そんな女ばっかりとおつら女になるぞ」と言ってるん。

みんな笑ってるん。

はじめ言ってること意味わからんし、けんちゃん何でおこってるんやろ？

と見ていたら、何回も言ってきた。

それを見ながら笑ってるのを見たらいややろな。けんちゃんがおこっているの

わかった気がするねん」

保育士 「そっか〜」

あきこ 「なんかわからんけど、イヤな気持ちやったんやろ？」

けん 「…うん…イヤやった」

女の子男の子にこだわらずに遊んでいたけんちゃんときこちゃん。

初めは、けんちゃんがどうして怒っているのかわからなかったようすが、けんちゃんの嫌な気持ちに気づいたあきこちゃんです。

おうちにきても いいよ

2歳児

弱っているセミをつかまえたひろちゃん。動かないセミを見て

ひろ 「せんせい、セミうごかへん」

保育士 「うそん。セミさん、しんどくて動けないんかな」近くで見えていたかよちゃん

かよ 「抱っこしてあげないと」

保育士 「抱っこしたら治るんかな？」

ひろちゃん、つかまえているセミの方を見て

ひろ 「おうちに帰らなあかんな。

ひろちゃんのおうちにきてもいいよ！」

自分たちの経験から、「こうしたら元気になる」ということを考えたつづきです。

おれたちのグループの
スタンツや

5歳児

キャンプの取り組みとして、部屋でスタンツ遊びの曲「アナと雪の

女王」をかけてグループで踊っている時

たくや 「これ、女の曲やで」

あきら 「そんな女とかちやうし、関係ないやん」

さき 「男の人もあるで」

じゅん 「おれたちのグループのスタンツやから、女と

か(女の曲)言わんとってほしい」

あきら 「♪ありの～ままの～じぶんさがして～♪」と

踊りはじめました。

さき 「おもしろいで」

カマキリとバツタ

5歳児

さよ 「バツタ かわいそう」

かんじ 「カマキリはバツタさんに”ありがとう”

言いながら食べているんとちがう？」

自然の摂理を子どもなりに受け止め、命の大切さを感じている子

どもたちです。